3.未来につなげるまちづくり

ここでは、各計画の継続および実現にむけて、具体的な条件の整理と、関係各機関への要望・調整事項の整理を踏まえて、計画案の提示を行います。

－1．いいまちなみ・歩きやすい環境づくりのために
　1）まちなみの調和を学ぶ

－2．緑をつなげる
　1）松をつなげる
　2）桜をつなげる
　3）光をつなげる

－3.石をつなげる
　1）石をつなげる
　2）石畳のデザイン

－4.光をつなぐ

3－1．いいまちなみ・歩きやすい環境づくりのために

わたしたちのまちはかつては旅人の往来で街道筋はいつもにぎわっていましたが、今では必ずしもそうではありません。まちの変化の原因の他に、重要な問題として、車の通行がかなりあり、歩道が狭く、歩く人のための道ではない現状があります。まちの様々な整備を行っても、タテ軸の東海道が歩きにくい道のままでは、いいまちなみの実現には至りません。

わたしたちは、東海道をいいまちなみ・歩きやすい環境にするために以下の提案をし、自ら実行するとともに、行政に要望していきます。

いいまちなみ・歩きやすい環境づくりのために

●自分たちの店を振り返る

・置き看板を歩道にはみ出して置かないようにする。
・ごみ箱や段ボール箱を店先に積み重ねない。
・歩道に業務用自転車・車を置かないようにする。
・来街者が安心して楽しめる店先づくりを心がける。
・自分の店だけが目立つような演出はやめる。
・まわりとの調和を第一に考える。

●まちなみの調和のために

・伝統的な建物を残す、継承する。
・まちのイメージに合った看板をつくる。
・まちの人たちの結束を強める。
・電柱を将来的になくすことを考えていく。
・街路照明をタテ軸・ヨコ軸でそろえていく。
・まとまりのある美しい演出をする。
・夜間の照明に気を配る。

●歩行者のためのみちをつくる

・通行規制を徹底する。
・歩道の空間をわかりやすくする。
・車のスピードを抑える工夫をする。
・ボラードを置いて車の乗り入れを防ぐ。
・一息できる休息の場をつくる
・横丁を大切にする

●うるおいのあるまちをつくる

・緑を残す、増やす、大切にする。
・手近な緑で粋な演出をする。
・美しいものをつくり、大切にする。
・アートに触れるばしょをつくる。
・水を演出する。

↓

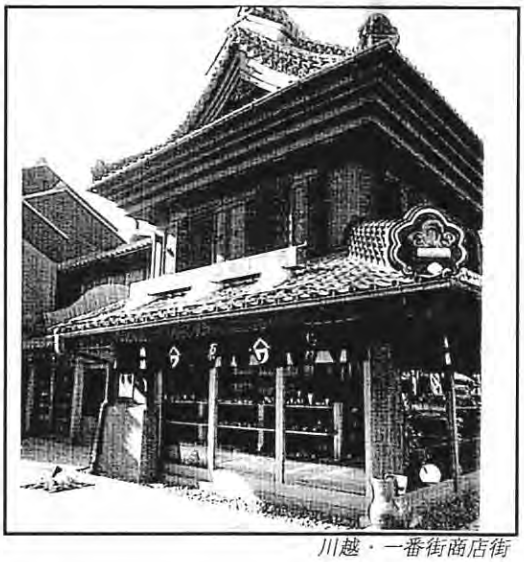
将来的にまちなみデザインマニュアルをつくってまちで守っていく。

3－1．1）まちなみの調和を学ぶ

品川宿のまちなみは、これから時間をかけて整えていくものです。わたしたちは、他の地域の良い事例に学びながら、品川宿として調和のとれたまちなみの実現を目指していきます。

●伝統的なまちなみを保存・継承する

川越・一番街商店街



川越・一番街商店街

●まちのイメージにあった看板をつくる
●来街者が安心して楽しめる店先づくり

●新しいまちなみをつくる

横浜・元町商店街

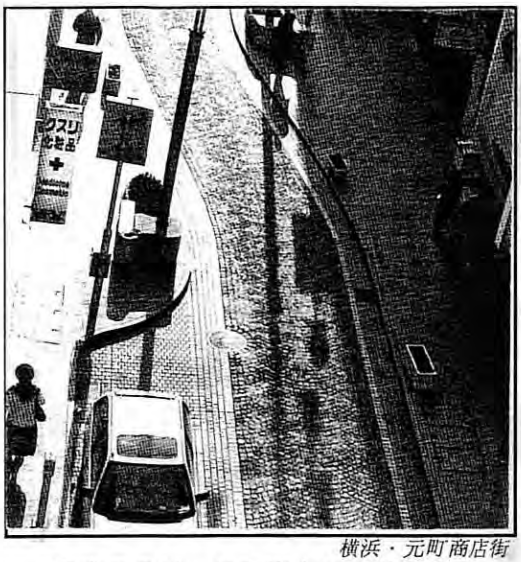
横浜・イセザキモール

●まちのイメージにあった看板をつくる
●来街者が安心して楽しめる店先づくり
●まちの人たちが団結したまちなみづくり

●歩行者のためのみち

長浜・北国街道

●歩道の空間をわかりやすくする。



横浜・元町商店街

●車のスピードを抑える工夫をする。

横浜・馬車道

●ボラードを置いて車の乗り入れを防ぐ。

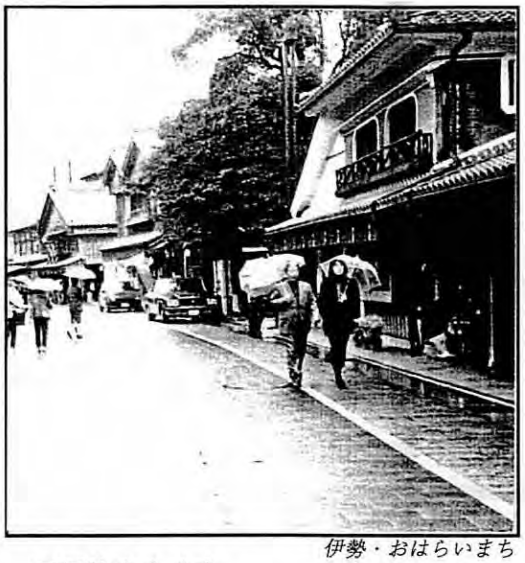
長浜・黒壁スクエア

●一息できる休息の場をつくる。

長浜・黒壁スクエア

●横丁を大切にする。

●景観を考える

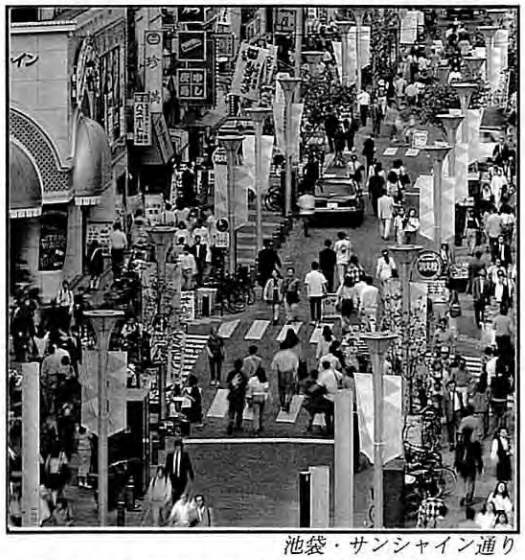


伊勢・おはらいまち

●電柱をなくす。

長浜・黒壁スクエア

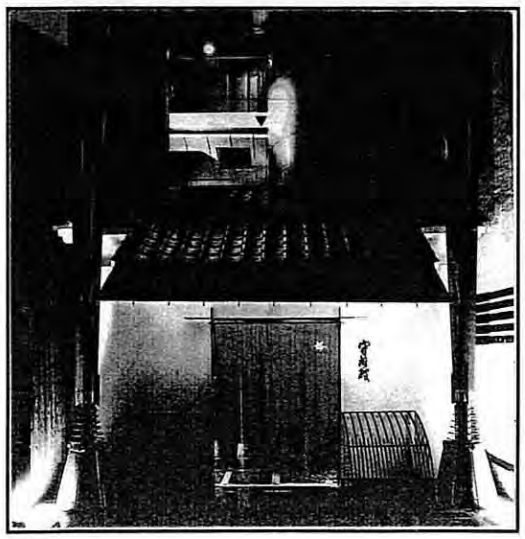
●細かいところまで気を配る。



池袋・サンシャイン通り

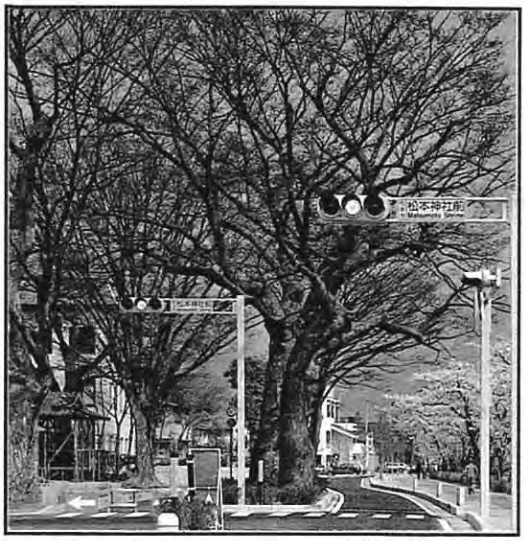
●まとまりのある美しい演出をする。

●街路照明をそろえる



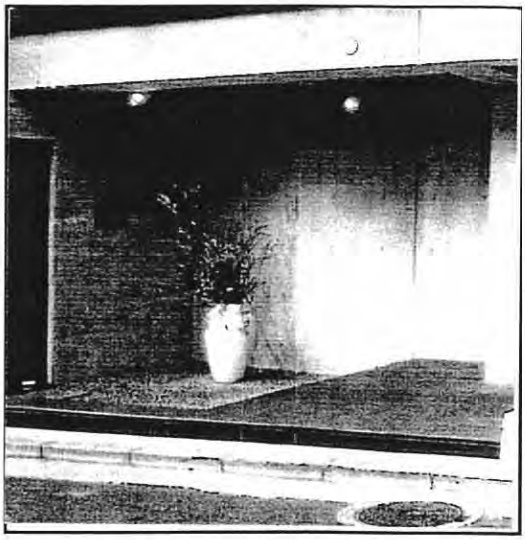
●夜間の光に気を配る。

●うるおいのあるまちをつくる

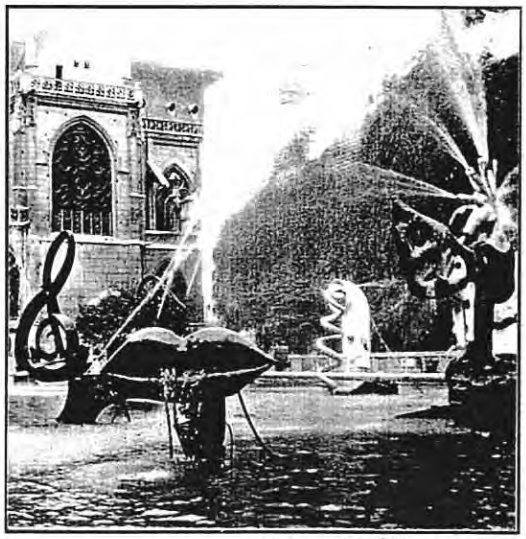


松本・松本城周辺

●緑を残す。大切にする。

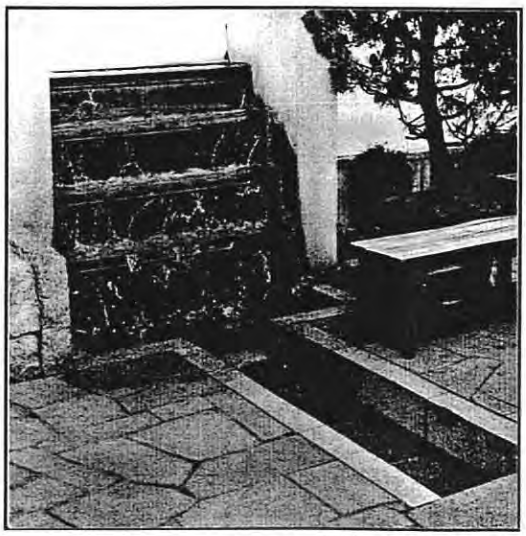


●手近な緑で粋な演出をする。



パリ・ポンピドーセンター

●アートに触れる場所づくり。

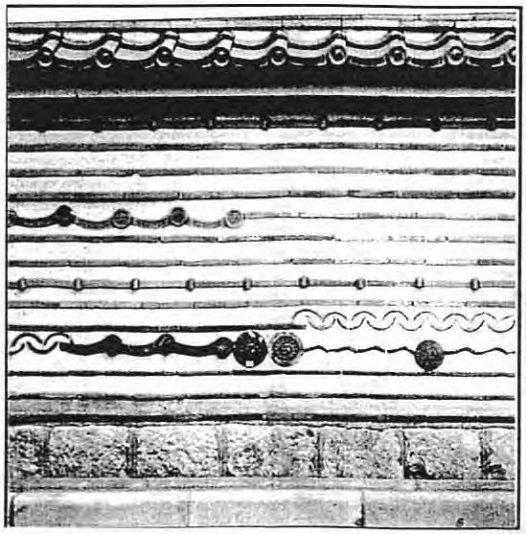


長浜・黒壁スクエア

●水の演出

京都

●美しいものをつくり大切にする。



奈良

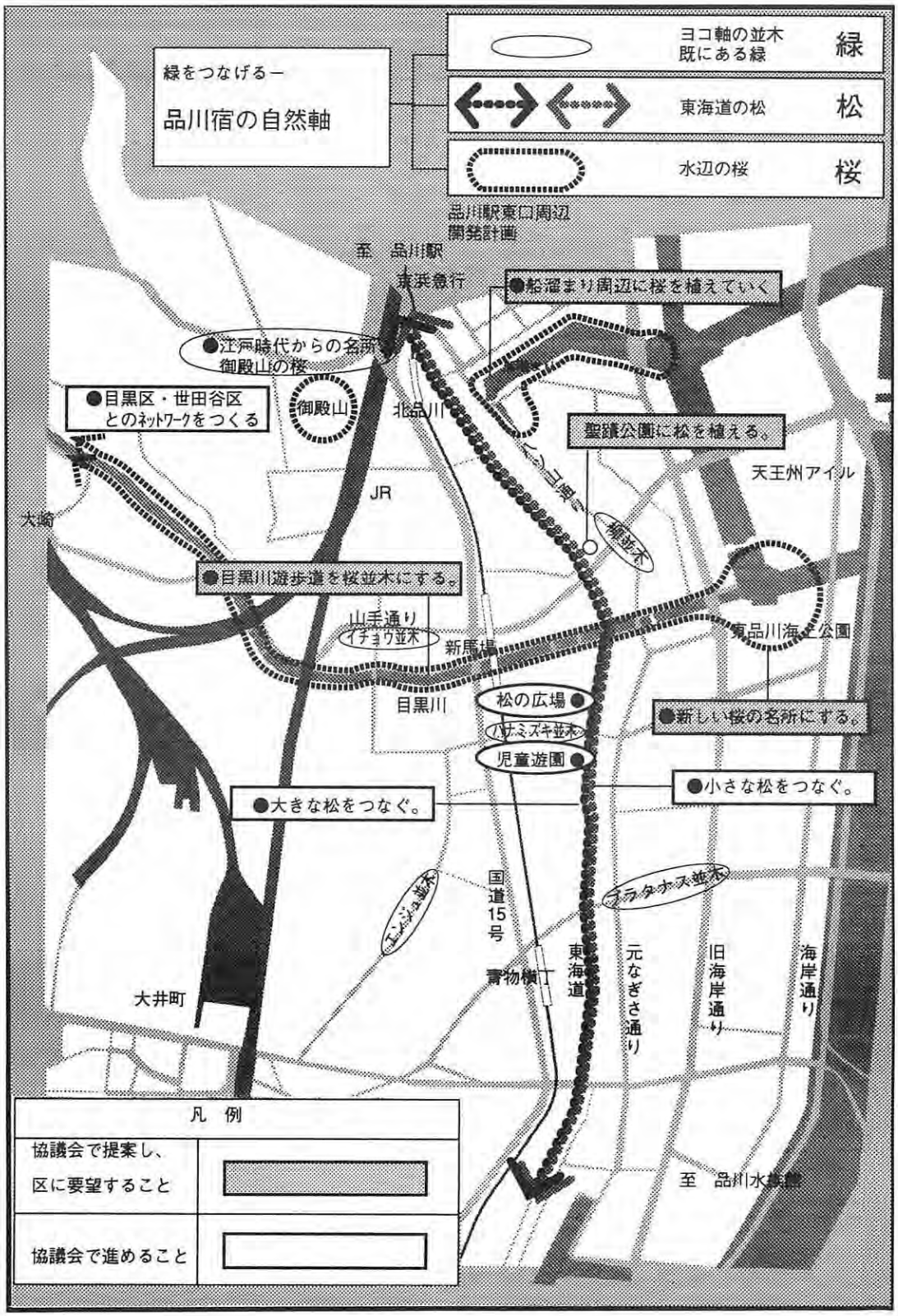
●美しいものをつくり大切にする。

3－2．緑をつなぐ

品川宿の歴史をさかのぼると、東側には海が広がり、街道筋には旅の道標であった街道松が続き、春は御殿山の桜の花見に興じるといった自然と密接に関わっていたまちであったことがわかります。この「緑をつなげる計画」は、失われた品川宿の四季折々の自然を、身まちの人の手で、また行政に要望して実現することで取り戻そうとするものです。具体的には、

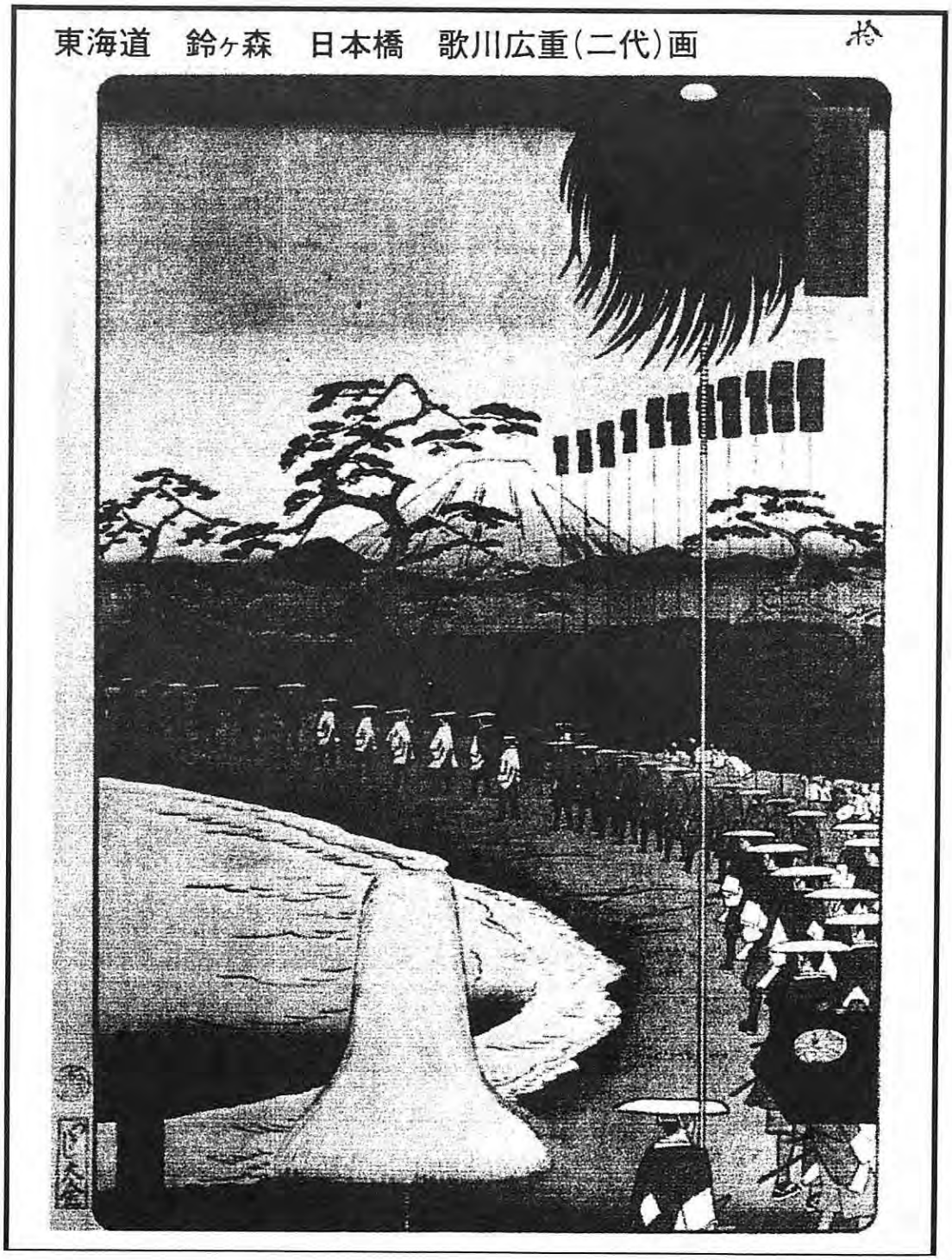
●松をつなぐ

●桜をつなぐ　という大きく２つの計画にわかれます。



街道を往来するための道標であった『街道松』を植えて、東海道の自然の軸として次の世代に継承していこうという計画です。と同時に、松は東海道の自然のシンボルであり、東海道宿場町ネットワークによる交流の証としても、重要な意味を持つものです。これまでも、このネットワークの交流を通じて浜松と三島から松を寄贈されています。わたしたちは、松を通じて、現代の街道の交流を、結ぶつきの深いものにしていきたいと考えています。

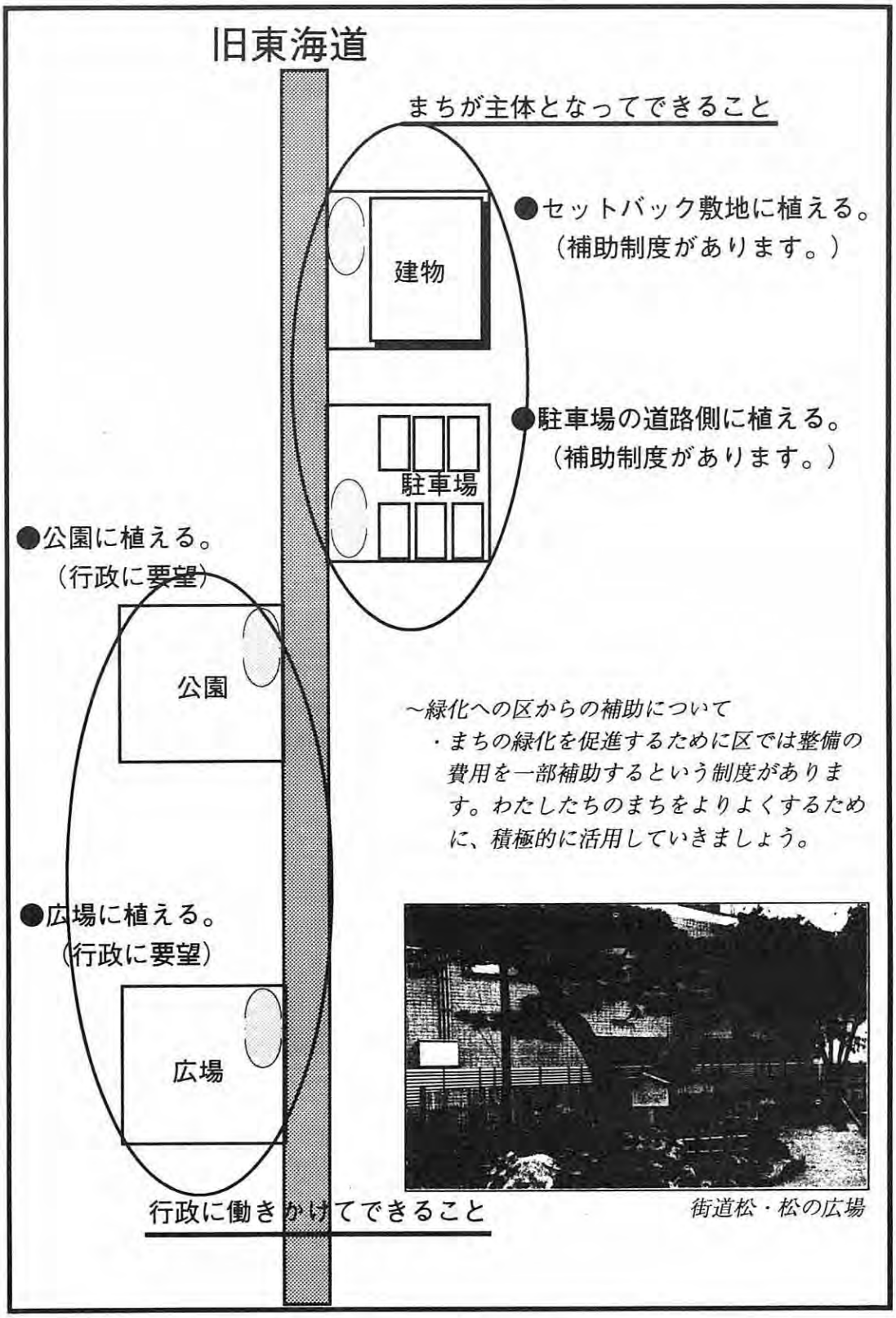
松をつなげる計画は、この東海道の街道松としての「大きな松をつなぐ」計画と、まちの一人一人が大切にする「小さな松をつなぐ」という計画の2つの計画からなりたちます。



3－2．1）(1)大きな松をつなぐ

わたしたちは、未来に東海道の風景を伝えるために、街道松を少しずつ植えていこうと考えています。大きな松を植えるためには、ある程度の場所が必要になってきます。下図は、可能性のある場所に対して松を植えるための考え方を示したものです。このような考えのもとに、「松の広場」が地元と区と東海道宿場町ネットワークの協力で、先行して実現しました。

わたしたちは、地元の理解と協力をお願いするとともに、区に対して今後も公園や広場に松を植えていくことを提案します。



街道松・松の広場

3－2．1）(2)小さな松をつなぐ

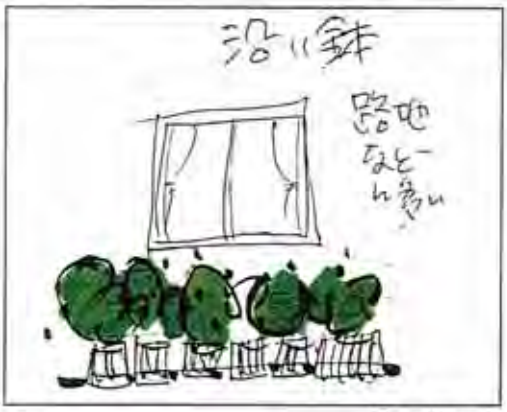
「小さな松をつなぐ」とは、地元の一人一人が松を持ち、松とかかわりのある生活を営み、現代の街道松としてつなげていくということです。「大きな松」は場所に条件がつくために、往時の街道松の風景を再現することは困難です。わたしたちは、その大きな松の間を一人一人の小さな松でつないでいき、新しい街道の風景をつくる一部としたいと考えます。

●1軒1軒が松を持つことで、街道松が連続して見えてきます。

絵：東京芸大教授　まえのまさる氏「白山は緑の町」から

垣根越の松

のぞきの松



沿い鉢の松

かど鉢の松

のせ鉢の松

前庭の松

3－2．2）桜をつなぐ

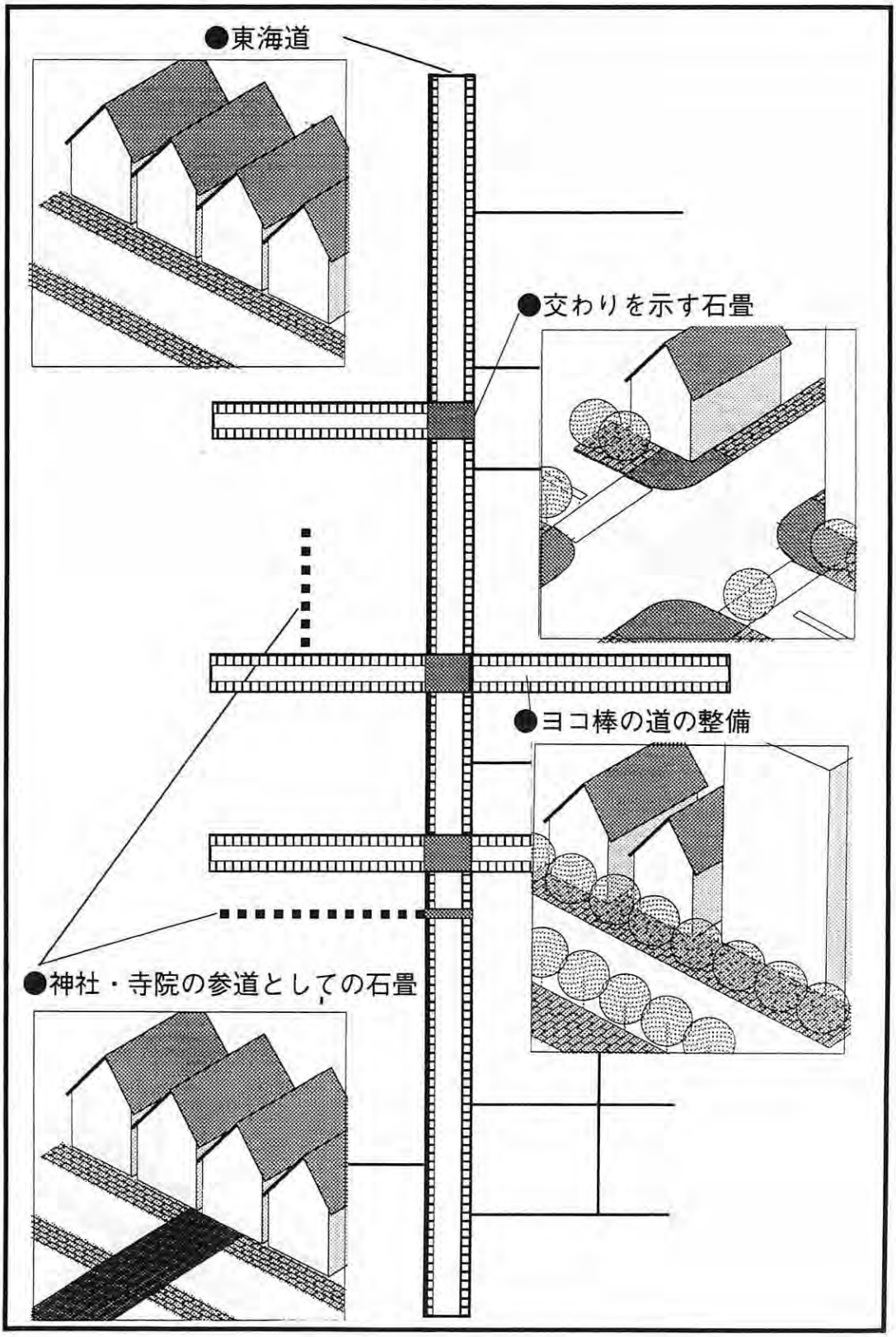
桜は、江戸時代からの名所の御殿山とともに、春の花見という四季の要素としてわたしたちの生活に密接なものでした。また、品川宿を横切る目黒川は、沿岸の他地域（目黒区・世田谷区）では桜並木が続き、花見の場として定着しつつあります。目黒川では行政によっ緑道整備事業が順次進められています。

わたしたちは、御殿山の桜の保存とともに、身近な水辺である目黒川の緑道整備に対して桜並木をつくる提案をします。さらに、これから整備が始まる東品川海上公園を新たな桜の名所にしたいと希望し、たくさんの桜を植えることを提案します。

御殿山の桜（江戸時代）

御殿山の桜（現在）

東海道は歩行者と車の共存道です。そのため、石畳を整備するにあたっては、気をつけなければならない点があります。交通量などを考慮した上で必要な断面をとって、いつまでも美しい石畳が続くための配慮をわたしたちは考えます。

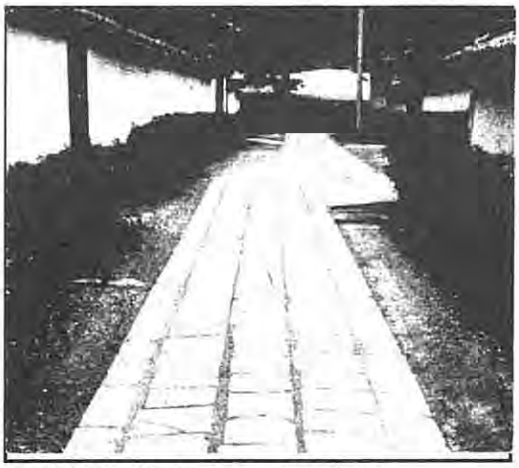


3－3．（2）石畳のデザイン

よい石畳のデザインとは、時間とともに愛着と風情をかもしだすものであると考えます。品川宿の石畳のデザインは、歴史あるこのまちを支える大切なまちなみの要素です。わたしたちは、他地域のよい事例を参考に、品川宿らしい石畳を考えていきます。

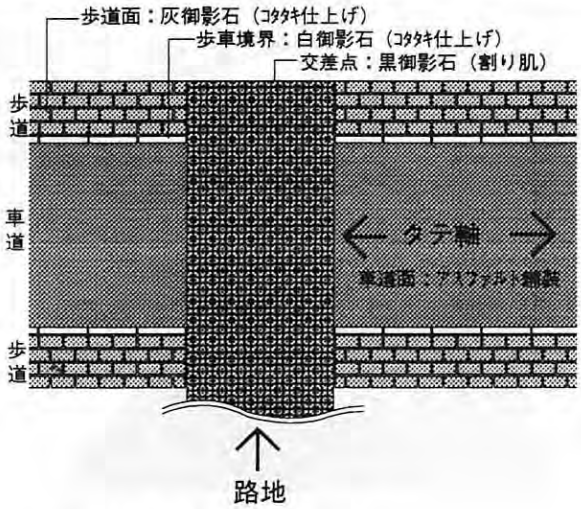
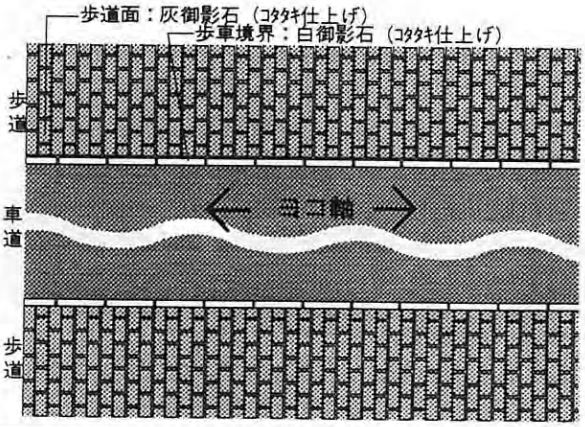
石畳を整備するには、地元の理解と協力、そして行政の支援が必要です。わたしたちは、いいまちなみ・歩きやすい環境づくりの実現のために、「石をつなげる」計画を時間をかけて進めていきます。

●歩車分離を示す石畳の事例



●路地を整える石畳の事例

●タテ軸（東海道）の石畳



●ヨコ軸の石畳